

令和7年7月3日
小樽開発建設部

「小樽港中央地区第3号ふ頭クルーズ船岸壁等整備事業」が

全建賞を受賞

～小樽の観光エリアに大型クルーズ船対応岸壁等を整備～

「小樽港中央地区第3号ふ頭クルーズ船岸壁等整備事業」が建設技術の発展に貢献したことが認められ、令和6年度全建賞を受賞しました。

令和7年6月27日に東京で表彰式が行われましたので、お知らせいたします。

「小樽港中央地区第3号ふ頭クルーズ船岸壁等整備事業」は、既存ストックを十分に活用し、コスト縮減・工期短縮を実現し、施工時には、配筋の3次元モデルや浚渫・地盤改良の施工状況を可視化するICT技術を活用し、作業の効率化及び品質向上に取り組んだ点などが評価されました。

事業名：小樽港中央地区第3号ふ頭クルーズ船岸壁等整備事業

受賞機関：国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部 小樽港湾事務所
小樽市

【参考】全建賞とは

「一般社団法人 全日本建設技術協会」が行う表彰で、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたもので、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々国民ニーズに沿った幾多の取り組みに授与される賞です。詳しくは、一般社団法人 全日本建設技術協会のホームページをご覧ください。

<https://www.zenken.com/hypusyou/hyousyou.html>

ShiriBeshi
「世界の後志」を目指して

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部

小樽港湾事務所 所長 林 誉命（電話 0134-22-6131）

小樽港湾事務所 計画課長 伊藤 卓也（電話 0134-22-6131）

（小樽開発建設部ホームページ） <https://www.hkd.mlit.go.jp/ot/>



【事業概要】

- 小樽港では6万総トン級を超える大型クルーズ船は、観光エリアから遠く離れた勝納ふ頭を利用しており、クルーズ旅客のアクセス対応に課題を抱えていました。
- このため、本事業では観光エリアに徒歩で行ける第3号ふ頭岸壁を、大型クルーズ船対応岸壁に改良整備しました。（令和6年3月完成）
- 岸壁整備と連携して、港湾管理者（小樽市）が主体となり、既存上屋をクルーズターミナルとして改修するなど、第3号ふ頭周辺を整備し、「みなとオアシス小樽」として登録、地域の賑わい空間を創出しました。

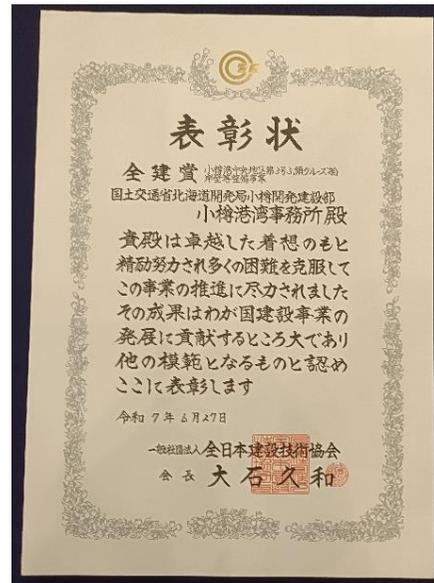


クルーズ船係留場所から市内観光エリアまでのアクセス

【授賞式の様子】



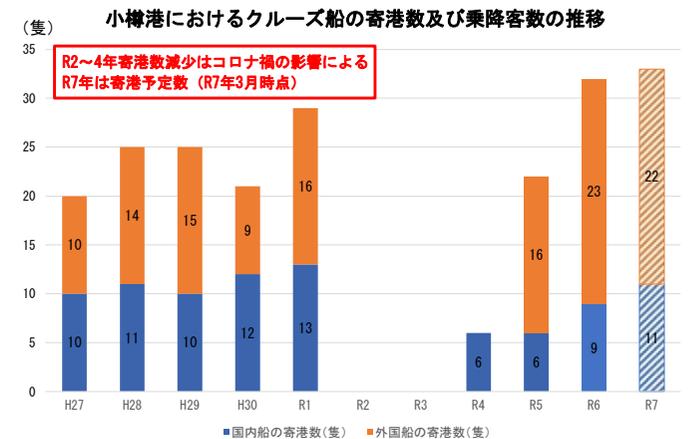
東京都内で行われた表彰式の様子
(令和7年6月27日)



表彰状



第3号ふ頭岸壁に接岸するクルーズ船(令和7年4月 リビエラ)



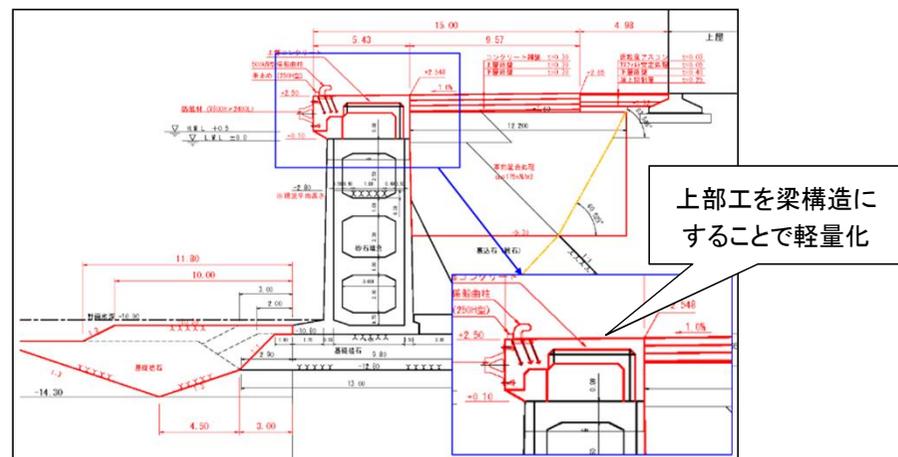
【評価されたポイント】

施設の部分ごとに全く異なる構造形式を採用することで既存ストックを十分に活用し、コスト縮減・工期短縮を実現しました。さらに、施工時には、配筋の3次元モデルや浚渫・地盤改良の施工状況を可視化するICT技術を活用し、作業の効率化及び品質向上に取り組んだ点などが評価されました。

既存ストックの有効活用



既存の岸壁2バースを1バースに改良。さらに、先端部にドルフィン2基を追加することで、14万GT級クルーズ船の係留を可能とした



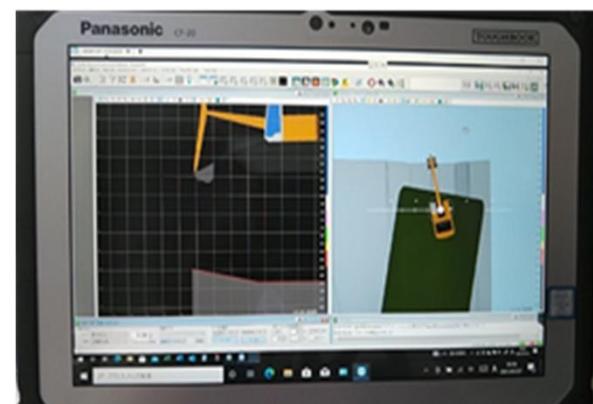
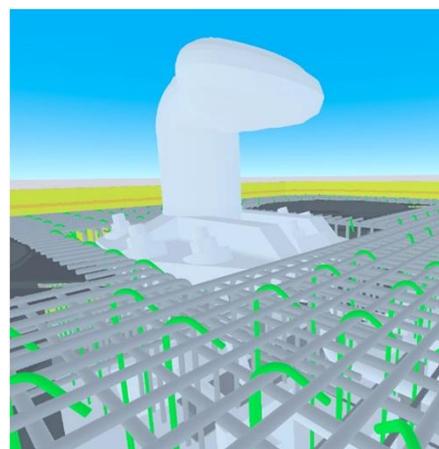
岸壁A部は事前混合処理による土圧低減及び軟弱地盤対策として、鉛直荷重低減のために上部工を梁構造とし、既設ケーソンを有効活用しコスト削減

上部工のプレキャスト化



上部工をプレキャスト化することにより工期短縮

3次元モデル、ICT技術の活用



ICT技術：3D表示機能付きバックホウ浚渫施工管理システム

3次元モデル、ICT技術の活用により作業の効率化・品質向上